

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立与野本町小学校)

学校番号 079

【様式】

目 指 す 学 校 像	凡事徹底の上に“情熱とスキル”をもった教職員が創造的に教育活動を進め、子どもたちに確かな生きる力を育む学校
重 点 目 標	1 子どもたちが生涯にわたって学ぶ基盤となる主体的な学習態度と基礎学力の育成 2 どの子も安全・安心のうちに学校生活を送り、自分のよさを伸ばし活躍できる教育環境の整備 3 150周年を超えた伝統と歴史の重みを生かし、地域に根差し、貢献できる学校づくり 4 教職員それぞれが児童、保護者、地域からの信頼を築き、喜びをもって力を発揮する教育活動

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和7年2月14日	
番 号	現 状 と 課 題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○規律ある学校生活の中で、学習に意欲的に取り組む児童が多く、基礎・基本の定着は概ねできてきているが、学年によっては定着に差がみられている。 ○「本町小算数スタンダード」に則り、既習を生かして課題解決に向けて取り組む力や自らの考えを表現する力が定着してきている。 ○長文の読解や複数資料から問題を読み解く力に差が見られる。 ＜課題＞ ○ICTを活用した個別最適な学びを一層推進していく必要がある。 ○思考ツールをより汎用性の高いものにするなど、児童の実態に合わせながら取り入れていく必要がある。	○国語力（特に読解力）の向上 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○「与野本町小国語スタンダード」を作成し、新聞を活用した学習方法等を確立する。 ○主体的に文章を読んで、自分の考えを伝え合える国語力（特に読解力）の向上を目指し、年2回の授業研究会を開催する。 ○「学力向上カウンセリング訪問」の活用による全国学力・学習状況調査結果等の分析と改善策を構築する。 ○SSSPを推進し、「スクールダッシュボード」の学習履歴を生かした児童支援や、チャレンジタイム等におけるICTを活用した基礎学力向上の取組を実践する。	○「与野本町小国語スタンダード」を生かし、新聞を活用した学習を全教員が実践したか。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「探究的な学び」の項目で1回目よりも2回目の結果の方が向上したか。 ○全教員が児童の学力や学習の状況を知り、今後の指導方法の工夫改善について考えることができたか。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「主体的な学び」の項目で1回目よりも2回目の結果の方が向上したか。	○学校課題研究を通して「与野本町小国語スタンダード」を作成するとともに、新聞を活用した学習を全教員が実践した。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「探究的な学び」の項目で1回目の平均値は3.15ptであったが、2回目の平均値は3.23ptとなり、0.08pt向上した。 ○「学力向上カウンセリング訪問」で研修した内容を生かし、児童の学力や学習の状況を踏まえながら、国語力の向上等における指導方法の工夫改善について考えることができた。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「主体的な学び」の項目で1回目の平均値は3.10ptであったが、2回目の平均値は3.23ptとなり、0.13pt向上した。	A	○今年度作成した「与野本町小国語スタンダード」を基にした授業実践をさらに定着させ、主体的に文章を読み、自分の考えを伝え合える国語力（特に読解力）の向上を目指していく。 ○チャレンジタイム等におけるICTを活用した取組により、基礎学力が定着しつつある。向上が見られる「主体的な学び」や「探究的な学び」を踏まえ、児童が自らの学び方を振り返りながら「自立した学習者」となれるように支援・指導していく。	○国語力は「生きる力」に直結している大切な力であり、その力を育てるためには言語環境を整えることが重要である。学校では、授業だけでなく教員の国語力を高めていく必要がある。
						A		
2	＜現状＞ ○大規模改修の後、地域やPTAの協力もあり、学校の整美が保たれている。 ○ハード面、ソフト面ともに教育環境が整い、児童は心身ともに健やかな状態であり、非行問題行動は少ない状況である。 ○いじめなどのトラブルを早期に解決し、その後の見守りや見届けを確実にしている。 ＜課題＞ ○古木の伐採を計画的に進めるとともに、教職員による点検を徹底したり、児童の安全への意識や環境美化に取り組む主体的な態度を育成したりしていく必要がある。 ○不登校傾向の児童と家庭へのより効果的な対応について模索していく必要がある。 ○児童が時と場に応じた行動をとれるよう粘り強く指導・支援をしていく必要がある。	○安全・安心な学校を目指す教育環境の整美 ○安全・安心な学校を目指す組織的な対応の強化	○全教職員による学期1回の予算委員会や、管理職等と事務職員による学期1～2回の予算会議により予算執行状況を確認する。 ○担任→主任→管理職の報・連・相・見届け等の組織的な対応を実施する。 ○「スクールダッシュボード」を活用した児童支援を強化する。 ○教職員全員で情報を共有し、児童理解のために様々な情報を出し合い、共通理解を図る。 ○教育相談を充実させるために、保護者が学校に相談しやすいよう教育相談日を設定し、周知する。 ○参集型の朝会等の実施により、異学年交流を通して、時と場に応じた行動をとれるようにする。	○学校評価アンケートにおける環境・施設設備の項目の職員・保護者・地域のA評価が向上しているか。 ○学校評価における児童の学校の活動に関する項目のA評価が向上しているか。	○学校評価アンケートにおける環境・施設設備の項目のA評価は職員31%⇒28・保護者・地域44%⇒34%となり、目標には至らなかった。 ○学校評価における児童の学校の活動に関する項目のA評価は60.3%⇒60.1%となり、目標には至らなかった。	B	○樹木の伐採を業者に依頼するなど、予算を適切に執行するとともに、新たに学校美化活動を設定するなど、計画的な教育環境の整美を行い、安全・安心な学校を目指していく。 ○次年度は、職員間の連携をさらに密にすることはもちろん、保護者との個人面談を1回から2回に増やして教育相談体制の充実を図ったり、参集型の朝会や異学年交流、あいさつ運動等を実施し自己指導能力の育成を図ったりするなどして、児童が安全・安心な学校生活を送るための体制を強化していく。	○学校には除草が必要な場所や古い桜の木など、整備していかねばならない場所がまだまだある。今後も学校美化活動などを通して、児童、職員、保護者、地域が協働しながら緑豊かで、安全・安心な学校を目指してもらいたい。
						B		
3	＜現状＞ ○アフターコロナとして実施した新しい形の運動会や音楽会が定着しつつある。 ○スポーツチームの選手や高齢者、近隣学校の生徒との交流など、地域とともにある学校としての役割を果たしている。 ○学校評価の結果から、保護者や地域住民は学校に対し概ね理解を示し、協力的である。 ＜課題＞ ○例えば児童、保護者、地域住民で落ち葉拾いをするなど、地域とともにある学校として協働できる教育活動を検討する必要がある。 ○業務改善の一環として令和6年度から実施している学校だよりの電子化等については、積極的な情報発信としての役割を十分に果たしているかどうか検証していく必要がある。	○コミュニティ・スクールの円滑な実施 ○信頼され慕われる学校づくり	○年3回開催する学校運営協議会において「本校児童に身に付けさせたい力」等について熟議を実施する。 ○学校運営協議会の開催後には、学校だよりの記事とするなど、保護者や地域に内容等を周知する。 ○学校だよりの電子化により、いつでもどこでも内容を確認できるようにする。また、週1回のブログアップ等により、積極的に情報を発信する。 ○運動会や音楽会を地域に公開したり、児童、保護者、地域住民で協働したりする活動を実施する。	○年3回開催する学校運営協議会において毎回、熟議を設定できたか。 ○学校運営協議会を開催した翌月の学校だよりににおいて、コミュニティ・スクールの内容を掲載したか。 ○学校評価における保護者の学校への信頼に関する項目のA評価が向上しているか。 ○学校ホームページのアクセス数が向上しているか。	○学校運営協議会において「本校児童に身に付けさせたい力」等について熟議を実施し、「自分で考えて行動する力」と「思いやりや感謝する心」に決定した。 ○学校だよりににおいて、学校運営協議会での議題の内容や熟議の様子などを掲載し、保護者や地域に情報を発信することができた。 ○学校行事を地域に公開したり、児童、保護者、地域住民で協働したりする活動を実施できたが、学校評価における保護者の学校への信頼に関する項目のA評価は47%⇒42%となり、目標には至らなかった。 ○学校だよりの電子化により、いつでもどこでも内容を確認できるようにした。また、週1回のブログアップ等により、学校ホームページのアクセス数は年度当初の約450から1月末時点で約9000へ大きく向上した。	A	○学校運営協議会において決定した「本校児童に身に付けさせたい力」を育むための方策等について熟議を行うとともに、学校だよりの等を活用しながら地域や保護者に積極的に情報を発信していく。 ○学校行事等の公開や学校ホームページでの積極的な情報発信に加え、1月に運用を開始した配信アプリを引き続き活用するとともに、授業参観や作品展などの保護者の来校機会を確保することにより、信頼され慕われる学校づくりを目指していく。	○「自分で考えて行動する力」と「思いやりや感謝する心」について児童対象にアンケートを実施した結果を見ると、子どもたちはこんなによく考えているのかと大変感心した。この力は大人になってからも大切な力であり、小学校のうちに身に付けられるとよい。少数意見ではあるが、否定的な意見の児童については、今後もぜひ学校でフォローしていくほしい。
						B		
4	＜現状＞ ○ICTの活用や教科担任制の適切な実施により、ICTスキルの習得など徐々に高まってきている。 ○教職員に勤務時間超過の意識が足りない。 ＜課題＞ ○経験を積んだベテラン教員ならではの細やかな視点や手間をかけた指導を若手に伝えていく必要がある。 ○ICTの活用や教科担任制を全教員に浸透させるための研修等を引き続き充実させる必要がある。 ○勤務時間超過解消への意識を高める必要がある。	○やりがいを実感できる職場環境の醸成	○一人1回以上、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」の視点を意識した授業を、管理職等に公開する。 ○変更点・強調点を中心に協議する会議を実施する。 ○振替のない土曜授業日の翌月曜日午後の授業や会議を中止する。 ○教職員自身の勤務時間、超過勤務時間を把握させる。	○教職員の学校評価で、職務に関する項目のA評価が向上しているか。	○管理職等による授業参観や会議の精選、働き方の見直しなどの手立てを行ったが、教職員の学校評価で、職務に関する項目のA評価は37%⇒31%と低下した。	B	○教職員の休憩時間の確保や児童の自己指導能力の育成を図るなどして、教職員が心身ともに健康でやりがいを実感できるようにしていく。 ○時代に合わせ、教職員の育成やICTスキルの向上、指導方法改善を目指した研修等を引き続き充実させていく。	○時間外勤務時間が45時間を超えると健康面に支障が出てくる。4月に比べると12月は減っているが、80時間を超えるとかかなり苦しい状態であり心配な状況である。今後も教職員の負担を減らしていくために、より意識付けをしたり、話し合いをしたりしていくことが大切である。